

那賀町議会から お知らせ



那賀町議会：ホームページアドレス
http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/

那賀町女性模擬議会

令和5年10月3日に那賀町女性議会を開催しました。

女性模擬議長が議事を運営、4名の女性模擬議員が登壇し、女性の視点に立った町政に対する疑問、御意見及び御提案などについて一般質問を行いました。

主な質問と、これに対する長や関係課等の答弁の要旨は次のとおりです。

早山アヤ子女性模擬議員



今後の医療体制について

Q 那賀町では老年人口が50%を超えており、今後さらに医療機関利用の増加が予測される。現在の那賀町の医療体制では現状維持するのも難しいが、今後も医療の質を下げないための対策を伺う。

堤貴昭へき地医療戦略室長

A 医療人材の確保には大変苦労しており、対策は地道に係関係機関を回り、情報収集と協力依頼を続けていくしかない。那賀町の医療体制をどうしていくか長期的なビジョンと喫緊の課題への対応の両方を考えていきたい。

介護保険、医療保険の内容について

Q 那賀町は施設及び居住系のサービス給付率が高く、施設事業所の割合が全国と比較しても大きい。必要以上の介護施設と、在宅サービス不足の可能性があるが、いかにお考えか。作成中の第9期介護保険計画における在宅医療の位置付けは。介護保険料の目安や、数値目標、町で介護保険を利用し受けられる在宅

サービスの種類と、件数は。

池田繁人保健医療福祉課長

A 那賀町における施設サービスは、県下で断トツ1位となっている。町としてもそれぞれの利用者、家族の希望に沿った介護サービスを提供する中で、施設希望の方が多くなっているのが現状である。第9期介護保険計画における在宅医療の位置付け、介護保険料の目安、数値目標とともに、現在作成中の中で検討されていく。在宅サービスの種類等については、手元に資料がないため、後日お示ししたい。

有資格者の育成について

Q 那賀町では有資格者を育成する環境が整っておらず、資格取得は町外で研修を受ける必要があるため、断念するケースもある。在宅支援が難しくなる中、役場や地域の医療スタッフで勉強会や情報交換の場を設け、資格取得ができる環境を作っていたらいい。また、充実した医療介護や在宅医療の割合向上のため、医療従事者を町へ招致する対策はいかに。

堤貴昭へき地医療戦略室長

A 介護に関する人材不足も今後の深刻化が予想される中、介護保険法に位置付けられる医療、介護の連携研修やヘルパー資格の取得、介護技術に関する研修の開催など、現場の意見も聞きながら検討していきたい。

中川朋子女性模擬議員（オンライン）



観光資源である森林の活用について

Q 森林に囲まれた那賀町では遊歩道や登山道の整備、道標の設置、マウンテンバイクで走れる山道など、観光資源になり得る可能性はいろいろあるが、行政における整備計画、現状について尋ねる。町内外のボランティアを募るなど、町行政単独ではないコラボがあれば伺いたい。

下内孝浩にぎわい推進課長

A 森林を生かした観光等については「南つるぎ地域活性化協議会」といった団体により剣山系の山林や施設を中心にイベントなどを行っており、町は年30万円を助成している。現在町単独によるイベントや整備計画は予定されていないが、今後においてはその活用等を十分検討していきたい。

那賀町内施設のバリアフリー化について

Q 高齢化という意味で先進地域である那賀町において、今後バリアフリー化の計画、目標はいかに。また、同じような山間地域で那賀町のバリアフリー化のモデルとなるような先進地域があれば、教えていただきたい。

萬木幸男総務課長

A 那賀町では、公共施設等総合管理計画の一部を改訂し、ユニバーサルデザイン2020行動計画に沿った、利用者の快適性や利便性の向上について検討を進める内容としている。各施設の利用状況等を考慮し、財政状況により廃止又は修繕と併せ進めていきたい。おもちゃ美術館や、建設中の総合体育館等が那賀町のモデル的な施設になると考えている。

那賀町のごみ問題における3R（リデュース・リサイクル・再資源化する）の取組と今後の可能性について

Q 徳島県には、ごみ問題の先進的な取組について全国的に知られている上勝町があるが、那賀町においても粗大ごみに出す前に「不用品交換会、那賀町もっていない市」のような場があれば、3Rのチャンスも生まれると思う。現在の取組計画について伺う。

北谷積文環境課長

A 那賀町では、分別やEMボカシの補助などによりごみの減量化や再資源化を行っており、今後の取組としては、現在のごみ処理施設のクリーンセンターを長く維持し、町民の皆様が利用しやすくなる搬出や収集方法の改善をしたいと考えている。

藤園麻里女性模擬議員



不登校児童支援における、フリースクール等民間団体との連携について

Q 不登校児を対象としたICT学習支援やフリースクールの活用に関し、町としての公的補助や支援はどのようなものがあるのか。また、子供たち同士の交流や学習機会を確保するため、休校中の校舎や体育館、図書館などの公共施設を活躍の場として今後連携、活用する考えは。

高岡勇人教育次長

A 登校しづらくなった児童生徒や不登校児童生徒に対する支援については、1人1台端末を活用したオンライン授業設定や町費による教員を配置することなどが支援の一施策になると考えている。また、校舎や体育館の活用については、開放をどれくらい望まれているのか確認した上で、検討したい。

那賀町の自然環境データについて

Q 自然環境の大切さ、貴重さを次世代へつないでいくツールとして植物や動物、地質といった生物学や地学に関する基本的データの蓄積や継続した調査が必要だと思われる。那賀町のオリジナリティをアピールする持続可能なリズム観光資源としても、持続的な生物調査はされているのか。

高岡勇人教育次長

A 学校授業における自然環境についての学習は、総合学習の中で「ふるさと学習」として、学校ごとに那

賀町独自の学習に取り組んでいるが、何かに特化した持続的な生物調査は実施していない状況である。学習内容は、今後も学校ごとの目標、方針に沿って特色ある学習に取り組む予定である。

金沢悠香 女性模擬議員



住まい 移住してくる女性が住むところについて

Q 以前町営住宅は単身での入居が可能だったが、現在不可能となっているのはなぜか。単身者専用の住宅は、現在あるのか。「フォレストステージ令和」は男女共同のため、女性の林業アカデミー生も宿泊するが、防犯面の不安を解消する対策は。鶯敷地区に単身者も住めるアパートの建設予定があると聞くが、相生、延野、横石辺りでの建設の可能性や予定は。

湯浅正恵 住民課長

A 町営住宅は「同居の親族があること」等の規定がある住宅もあるが、募集時単身者しか応募がない、長期間空き家になっている等特別な事情がある場合、単身入居が可能な場合もある。鶯敷地区に町の整備した住宅用地があるので、那賀町民間賃貸住宅建築費補助金を活用した民間による住宅建築を計画している。他の地域でもこの補助金を活用した住宅整備を考えていきたい。

高岡栄作 林業振興課長

A 林業の担い手増加対策や移住の推進には住まいの要素も重要である。もっと住みやすい、働きやすい那賀町を目指すために「フォレストステージ令和」のセキュリティ面の強化や、快適な住環境となるよう居室の改修を含め、今後の課題として対策を検討したい。

井上京子 女性模擬議長



女性模擬議長挨拶

女性模擬議員の皆様、今回の議事進行に御協力を賜り感謝申し上げます。

模擬議長を務めさせていただいたことで私自身も

町政への関心が高まり、このような機会をいただいたことに感謝する。今後は表明された政策的提言、あるいは行政的な課題についてさらに議会等で深めていただき、執行、実現につなげ、充実した町政になっていけることを心から願う。

